

## 質問紙調査におけるダイアド・データ調査項目の検討

佐々木尚之（大阪商業大学）

### 目的

長期間にわたる緊密で多様な家族間の社会的交換は家族メンバー間の相互依存性を強める。こうした家族メンバー間の相互依存性を理解するには、同一家族内の複数メンバーから回答を得ること（ダイアドもしくはトライアドやそれ以上の家族メンバーから回答を得ること）が肝要であることが指摘されてきた。これまで海外で実施された家族研究において、日常的な感情の起伏の伝播のような、ごく短期間なものから、養育態度やメンタルヘルスなど世代を超えて影響力が長期間残存するものまで、家族メンバー間の相互依存性のさまざまな存り方が明らかにされている。近年、日本においてもダイアド・データへの関心が高まっているが、ダイアド・データを用いた家族研究の課題や分析手法について整理する必要がある。本報告では二次分析可能な公開データを用いて、質問紙調査における既存の調査項目を整理し、方法的に検討することを目的としている。

### 方法

東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターに寄託された個票データのうち、2000年以降に実施された、ダイアド・データを含む全国規模の調査を利用する。検索キーワードには「ダイアド」「ペア」「夫婦」「親子」「家族」「世帯」などを用い、同一家族内の複数メンバーを調査対象とするデータセットを収集した。連合総合生活開発研究所が雇用労働者とその配偶者を対象に実施した「生活時間に関するアンケート調査」、内閣府が25～64歳の夫婦を対象に実施した「ワークとライフの相互作用に関する調査」、内閣府が中学3年生とその保護者を対象に実施した「親と子の生活意識に関する調査」、2012年高校生と母親調査研究会が実施した「高校生と母親調査」、NNK放送文化研究所が実施した「NHK中学生・高校生の生活と意識調査」、家計経済研究所が首都圏在住で妻年齢が35～49歳の夫婦およびその子どもを対象に実施した「現代核家族調査」のデータを分析に用いる。これらの個票データのうち親子ダイアドもしくは夫婦ダイアドに対して同一設問を尋ねている項目を抽出し、回答者とそれぞれの設問が対象とする人物との関係性によって設問項目を6つに分類した。これらの設問項目の分類ごとに回答の一致／不一致の傾向を確認した。

### 結果

ダイアド・データの調査項目の分類は以下の通りである。設問の対象となっているものが①回答するダイアド自身（夫婦ダイアドにおける夫婦関係満足度や親子ダイアドにおける親子間の会話頻度など）、②回答するダイアド内の同一個人（夫婦ダイアドにおける夫の家事頻度や親子ダイアドにおける子どもの進路希望など）、③回答するダイアドを含む同一集団（夫婦ダイアドにおける家計状況や親子ダイアドにおける家族レジャー頻度など）、④回答するダイアド内の同一個人とダイアド外の同一個人（夫婦ダイアドにおける妻と子どもの親密度や母子ダイアドにおける父親と子どもの会話頻度など）、⑤回答する個人（自分自身の価値観、メンタルヘルス、睡眠時間など）、⑥ダイアド外の同一個人または集団（夫婦ダイアドにおける子どもの学校の評価や父子ダイアドにおける母親の健康状態など）に割り当て、それぞれの特徴を整理した。その結果、これまでに日本の社会調査で収集されたダイアド・データに大きな偏りがあることが明らかになった。具体的には、分析対象とした221項目のうち98項目（44.3%）が②回答するダイアド内の同一個人、68項目（30.8%）が⑤回答する個人を設問の対象としており、ダイアドを測定単位とした項目がほとんどなかった。また、ダイアドに対して異なる設問文や選択肢を用いているために分析が困難になるケースや、同一設問を用いているものの回答者の立場によって異なる意味となってしまうケースなどもあった。今後、ダイアド・データに適した統計分析を促進するには、調査設計の段階で想定する統計モデルを念頭において調査項目を検討する必要がある。

（キーワード：ダイアド・データ、社会調査、調査項目）